

参考資料 3

実証運行実施マニュアル例（若葉台地区）

若葉台地区
グリーンスローモビリティ実証運行
実施マニュアル

内容

1. 運行業務.....	1
1.1. 運行前の準備.....	1
1.2. 運休.....	2
1.2.1. 運休の判断	2
1.2.2. 運休時の対応	2
1.3. 運行中の作業.....	3
1.3.1. 運行について	3
1.3.2. 安全を確保するための注意点	3
1.4. 終業後の作業.....	4
1.5. 駐・停車禁止の場所.....	5
2. 問合せ対応.....	8
3. Q&A 集	8
4. 様式集.....	10
5. 自動車事故 対応マニュアル.....	14
6. 急病人発生時の 対応マニュアル.....	15
7. 緊急連絡網.....	16

1. 運行業務

1.1. 運行前の準備

運行前には、参加するスタッフが集合し、以下の対応を実施する。

若葉台自治会館へスタッフ集合

- ・ 運行開始の 30 分前に、運転手、添乗員、調整役を担う 3 名が集合する。



運転手のアルコールチェック（運転手、添乗員）

- ・ 運転手は運転前にアルコールチェックを実施する。
- ・ 添乗員が結果を確認して、「酒気帯び確認記録簿」に記録する。



予約状況の確認（運転手、添乗員）

- ・ 前日までの予約状況から、どこで誰が乗車するかを確認する。
- ・ 添乗員は、運行日誌、本運行マニュアルを車内に持ち込む。



車庫出し（運転手、添乗員）

- ・ 運転手はグリスロの鍵を、保管先から取り出す。
- ・ グリスロが充電中でコンセントがささっている場合は、充電ケーブル、変圧器を片づける。
- ・ ルームミラー、ドアミラーの角度を、自分が見やすいように調整する。
- ・ スロープを降りる際、横幅が狭いため、手すりに当たらないよう、添乗員も確認しながら降りる。



車両のチェック（運転手）

- ・ 運転手は「グリスロ車両チェックリスト」に基づいて、運転前に車両に異常がないか確認を行う。



もしも異常があったら（運行間、運行中いずれも）

- ・ 車両に異常を発見した場合は、運行の見合せ・中断し、相模原市および車両所有者に報告する。
- ・ 車両所有者は、は、車両の異常を確認し、点検等の実施を手配する。

1.2. 運休

1.2.1. 運休の判断

- ・ 運行日に、「大雨」、「暴風」、「豪雪」等の悪天候に関する警報が発表されている場合は、無条件でその日は運休とする。注意報の場合は、運行時間帯と注意報の出ている時間帯に留意し判断する。特に、「雷」注意報は、グリスロは避雷機能がないため、落雷時に搭乗者が感電する可能性があることを念頭に判断する。

＜気象庁 相模原市の警報・注意報＞

https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#area_type=class20s&area_code=1415000

- ・ なお、集合した時点で安全運行に不安が生じる場合は、予報に関わらず運休とする。
- ・ 運行中の急な荒天（落雷・雷雨等）の場合は、現場判断で、安全を優先して運行を中断する。
- ・ 翌日が悪天候であることが明らかな場合は、前日時点で運休を決定する。

1.2.2. 運休時の対応

- ・ 運休の場合、利用者に対して、運休の連絡をする。
- ・ 前日に判断した場合は、翌日の運行スタッフに連絡をする。
- ・ 車庫で、荒天により雨が吹き込む可能性がある場合は、帆（エンクロージャ）を閉めて、内部が濡れないようにする。

1.3. 運行中の作業

1.3.1. 運行について

- ・ 設定されたルート・ダイヤに基づいて運行する。
- ・ 助手席には添乗員が座り、利用者には乗車させないこととする。
- ・ 乗車する際に、添乗員は予約の有無を確認すること。併せて、降車バス停、行先を確認し、運行日誌に記録する。
- ・ 運転手、添乗員を除き、カートの利用者の定員は5名で、後列が3名、中央列が2名まで乗車可能。
- ・ 荒天時等に利用する帆（エンクロージャー）の開閉は、利用者からの要望等に応じて運転手の判断で行う。また、高齢者等、エンクロージャーの開閉が難しい状況である場合は、開閉支援を行う。
- ・ 小学生以下は、保護者の方が隣に乗車することとし、車から手等を出さないよう、注意を促す。特に落ち着きがない子の場合は、後列中央に子供を乗せ、左右に大人が座る。

1.3.2. 安全を確保するための注意点

停車時

- ・ 停留所以外での乗降のための停車では、交差点や曲がり角付近（概ね 5m 以内）、カーブや上り坂の終わり等の見通しの悪い箇所は避ける。
- ・ 急停車は避け、後続車にも配慮すること。

乗降時

- ・ 利用者は、必ず車両の左側から乗降させる。
- ・ 乗車時には、座席前面の手すりや、座席左右にあるアームレストをしっかりつかむように声掛けをする。
- ・ 添乗員は、左右に設置された飛び出し防止ベルトが確実に締まっていることを確認する。

手荷物の取扱い

- ・ 利用者の手荷物は、基本的に各自の手元で管理するよう依頼すること。
- ・ 積極的に荷台を活用し、安全のために手すりを両手で握れるように促す。但し、次の2点に注意する。
 - ①荷台は密閉されていないため、落下等が起こらないよう注意する。
 - ②荷台は帆（エンクロージャー）がかかるが、雨で荷物が濡れる可能性がある。
- ・ 利用者の手荷物が大きく、定員よりも乗車できる人数が少なくなる場合は、無理せず乗車できる人数までの乗車とすること。

運行時

- ・ 後続車のいる場合は、道路の左側端に寄って停車し、進路を譲る（ハザードランプは装備されていないため、左側ウインカーを点灯させる）。
- ・ シートベルト、チャイルドシートが設置されていないため、曲がり角においては十分に減速し、急加速・急停車は行わない。
- ・ 車高が低く、ホイールベースが長いため、道路上の段差や、傾斜が大きく変わる箇所は留意し、速度を落として走行する。
- ・ 起終点で転回を行う場合や、入出庫時等に段差がある場所を通行する際には、利用者、添乗員は必ず一旦下車し、運転手のみが乗車する。添乗員は接触事故等がないように誘導し、危険な場合は運転手に声掛けをする。
- ・ 走行中、停留所表示等が剥がれているのを発見した際、その場で直せない場合は記録しておき、後ほどスタッフで修復する。

運行後（午前便、午後便ともに）

- ・ 若葉台自治会館の指定場所に駐車する。
- ・ 帰着後は、車両の鍵、運行日誌を次の運行に引き継げるよう、所定の場所に保管する。

1.4. 終業後の作業

- ・ 一日の運行が終了したら、運転手は以下の対応を行う。
 - 車両を車庫の保管場所に移動させる。スロープは狭いため、添乗員が必ず誘導すること。バックでの車庫入れとなるため、車止めの設置が望ましい。
 - 車両の電源を OFF にする。
 - 変圧器を介して車両に充電ケーブルを接続し、充電ランプが点灯していることを確認する。
 - 車両の鍵、運行日誌、本運行マニュアルを自治会館の指定場所に保管する。
- ・ 次回の運行日が数日後になる場合は、翌日には充電器の片付けを行う。

1.5. 駐・停車禁止の場所

駐車、停車は以下のとおり定義されている。実証運行ではどこでも乗り降りができるとしているが、停車ができないところも多いため、再度確認しておく。

駐車

- ①車両等が客待ち、荷待ち、貨物の積卸し、故障その他の理由により継続的に停止すること（貨物の積卸しのための停止で5分を超えない時間内のもの及び人の乗降のための停止を除く。）
- ②車両等が停止し、かつ、当該車両等の運転をする者がその車両等を離れて直ちに運転することができない状態にあること

停車

停車とは、車両等が停止することで駐車以外のもの



駐車禁止場所



駐停車禁止場所

《 停車及び駐車を禁止されている場所 》

1. 道路標識又は道路標示により停車及び駐車が禁止されている道路の部分
2. 交差点、横断歩道、自転車横断帯、踏切、軌道敷内（通常は路面電車の線路部分）、坂の頂上付近、勾配の急な坂又はトンネル
3. 交差点の側端又は道路のまがり角から5メートル以内の部分
4. 横断歩道又は自転車横断帯の前後の側端からそれぞれ前後に5メートル以内の部分
5. 安全地帯の左側の部分及び当該部分の前後の側端からそれぞれ前後に10メートル以内の部分
6. バス停から10メートル以内の部分
7. 踏切の前後の側端からそれぞれ前後に10メートル以内の部分

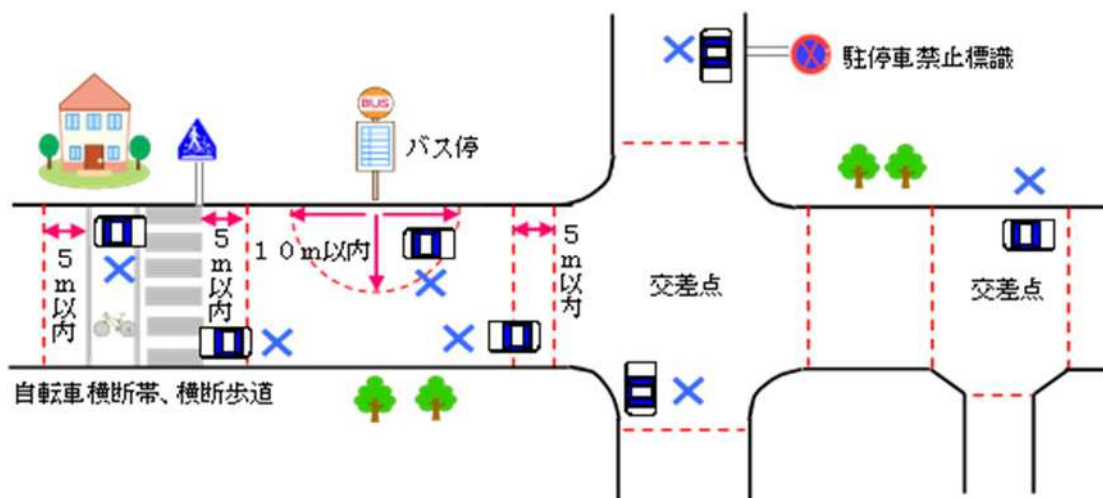


図 主な駐停車禁止場所

出典：愛知県警察

特にバス停について、駐停車禁止場所を明示する。

《 団地内のバス停位置図 》



○若葉台中央 BS



 バス停から 10m 以内で駐停車禁止

○新若葉台 BS



○若葉台七丁目 BS



 バス停から 10m 以内で駐停車禁止

2. 問合せ対応

- ・ 利用者からの問合せがあった場合、内容の記録を行う。
- ・ 運行中ですぐに回答できない場合は、予約受付の電話番号を伝える。
※車内に案内用のチラシを用意し渡す
- ・ 回答が分からないものは、改めて連絡する旨を伝え、問合せ内容と連絡先を「問合せ受付用紙（別添）」に記載し、後日回答する。
- ・ その場で回答できた問合せ内容も、「問合せ受付用紙」に記載し、保管する。

3. Q&A 集

Q1：この実験はいつまでやっているのか？

A1：2023年6月8日から7月31日までの約2か月間である。

Q2：どこを通るルートなのか？

A2：若葉台団地を巡回するルートを基本に、広瀬病院までを運行している。
今後は、スーパーアルプスまで行くことも検討している。

Q3：誰でも乗れるのか？

A3：基本的には、利用登録をしていただき、予約した方を対象にしており、余裕があれば、それ以外の方も含め利用できる。住民の場合は、ぜひ利用登録をしていただきたい。

Q4：誰が運行しているのか？

A4：任意団体のグリスロ若葉台の会で運行している。
今回の実証運行については、相模原市都市建設局まちづくり推進部交通政策課が所管しており、市の協力を得ながら実施している。

Q5：運賃はいくらなのか？

A5：無料で利用できる。

Q7：どこでも乗車・降車できるのか？

A7：団地内は、基本的にはどこでも乗車・降車ができる。団地外では、交通量も多いので、決まった停留所でのみ乗降できる。

Q8：今後この事業はどうなるのか？

A8：実証運行の結果を踏まえ、方針を決定すると聞いている。

Q9：天候不順の際、運行するのか？

A9：落雷が懸念される際や、大雨・暴風などの場合は運休することもある。

Q10：満席の場合は代行便を出してもらえるのか？

A10：席は先着順となっており、定員を超えた場合は乗車をお断りしている。なお、代行便の手配は行っていない。

Q11：子どもは一人で乗っていいのか？

A11：小学生以下は、大人の方と一緒に乗車してください。

Q13：シートベルトが無いのは違法ではないのか？

A13：最高速度 19 キロ未満の車両は「道路運送車両の保安基準（昭和 26 年運輸省令第 67 号）」が緩和されるため、シートベルトやチャイルドシートは装備しなくても構いません。なお、シートベルトの代わりに車両の側面にサイドベルトが装備されているため、走行中は必ず締めてください。

Q14：ペットは載せても良いか？

A14：お断りしています。

Q15：許可はとっているのか？

A15：警察、運輸局、バス等の交通事業者には、相模原市交通政策課から事前に内容の確認を頂いている。

Q16：もっと便利にならないのか？

A16：ハード面については車両の改造となり難しいが、移動に困っている人が利用しやすいように、意見を聞きながら改善を進めたい。
ただし、グリスロ若葉台の会はボランティアでの運営であるため、提供できるサービスにも限度があるという点も了承いただきたい。

4. 様式集

酒気帯び確認記録簿

[illegible]

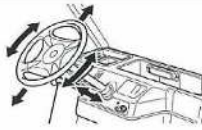
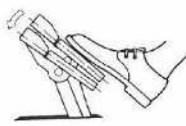
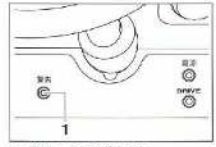
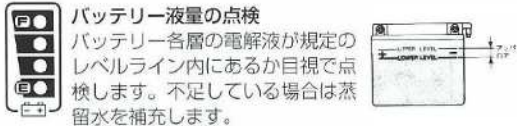
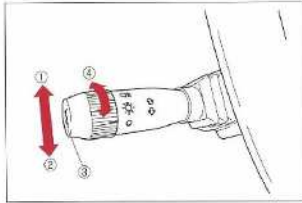
問合せ 受付用紙

受付日	月 日 :
お名前	
問い合わせ内容	
対応状況・回答	
連絡先 (折り返し電話が 必要な場合)	

グリス口車両チェックリスト

別紙：～チェック内容説明～も参考にチェックを実施して下さい。

ID	チェック項目	チェック結果					
	確認日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	チェック実施者名						
1	車体・車内に汚れや破損はないか	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	ハンドルに異常はないか	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3	タイヤに亀裂・破損等の異常はないか タイヤの空気圧に異常はないか	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4	ブレーキペダルの遊びの点検 ※電源を入れる前に実施	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5	警告ランプの点灯はないか	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6	バッテリーの残量は十分か	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7	ランプ類の点灯・点滅に異常はないか ランプ類に汚れや破損はないか	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8	ブレーキの利き具合に異常はないか	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9	エンクロージャーに亀裂・破損等の異常はないか ※エンクロージャーを使用する可能性がある場合	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10	走行時の不具合・異常はないか	☐	☐	☐	☐	☐	☐

グリスロ車両チェックリスト ～チェック内容説明～	
1	車体・車内に汚れや破損はないか
2	ハンドルに異常はないか ハンドルの遊び、ゆるみ、ガタの点検 ハンドルを手で持ち上下左右、前後に動かしてガタがないか点検します。 
3	タイヤに亀裂・破損等の異常はないか タイヤの空気圧に異常はないか ※日々の点検では、目視でタイヤの空気が抜けて、タイヤがつぶれていないかを確認 タイヤの空気圧の点検 タイヤゲージを用いて空気圧を測定し、不具合がある場合は点検します。 
4	ブレーキペダルの遊びの点検 ※電源を入れる前に実施 ブレーキペダル（レバー）の遊びの点検 ブレーキペダル（レバー）を踏み（握り）遊び量を点検します。不具合がある場合は調整します。 
5	警告ランプの点灯はないか ●警告ランプ（赤色） 車両に異常が生じたときに点灯します。  1. 警告ランプ（赤色）
6	バッテリーの残量は十分か ※日々の点検では、バッテリー液量の点検は優先度が低い 充電量の確認 駆動用バッテリーパックが十分に充電されているかインジケーターで確認します。 バッテリー液量の点検 バッテリー各層の電解液が規定のレベルライン内にあるか目視で点検します。不足している場合は蒸留水を補充します。 
7	ランプ類の点灯・点滅に異常はないか ランプ類に汚れや破損はないか ※ウinker、ヘッドライト・テールライト、ブレーキランプ  ①右折・右側へ車線変更：右の方向指示灯が点滅します。 ②左折・左側へ車線変更：左の方向指示灯が点滅します。 ③・④どちらも中心部に戻すと消灯します。 ※ウinkerはオートリターンではありません。 操作後は必ず中心部に戻してください。 【要点】 自動走行中、ウinkerは自動で ON/OFF します。作動しない場合は手動で操作してください。また、オーバーライド機能で進行方向を変える場合も進路変更別に手動で操作してください。 ③ホーン：押すとホーン（警報音）が鳴ります。 ④ライト：スイッチを回すとヘッドライトとテールライトが点灯または消灯します。
8	ブレーキの利き具合に異常はないか ブレーキの利き具合の点検 徐行しながらブレーキを作動させ利き具合を点検します。  駐車ブレーキの利き具合の点検 定められた下り坂でパーキングブレーキを作動させ確実にロックすることを確認します。 
9	エンクロージャーに亀裂・破損等の異常はないか ※当日、エンクロージャーを使用する可能性がある場合 走行時の不具合・異常はないか 走行点検 走行時、異常な振動や異音がないか点検します。  シフトレバー（スイッチ）の点検 シフトレバー（スイッチ）を操作し、「前進」「後進」走行ができるか点検します。 
10	

説明文は、YAMAHA 電磁誘導式ランドカー研修テキストより抜粋掲載しています。

5. 自動車事故 対応マニュアル

初期対応 4 つの鉄則

1. 人＝左

ケガ人が後続車両に再びひかれることがないように、
容態を見て動かせるようなら道路左端へ移動させます。
(※救護義務を怠ると懲役や罰金を受けます。)

2. 車＝左

二重、三重事故や渋滞を避けるため、車を左端へ移動させます。

3. 110 番

必ず 110 番へ電話すること。通行人に依頼してもかまいません。
(※110 番時にケガ人がいる旨を伝えれば 119 番はいりません。)
保険手続きをするために、警察の事故証明が絶対必要。

4. その場で示談は絶対しない

あわてている事故現場で示談は禁物。
法外な賠償金を要求されることがあります。
「私が全て支払います」などといった念書は絶対に書かないこと。
示談を強要されたら、
「この事故の解決は保険会社に一任します」と書きます。

報告のポイント

1. 初期対応が終わったら、現場からまず「グリスロ若葉台の会」の調整役へ事故報告をしてください。

グリスロ若葉台の会（調整役）・・・ 000-0000-0000

2. 相手と必ず確認してください。

- ① いつ・・・事故発生日の年月日、時間
- ② どこで・・・事故の発生場所
- ③ 誰が・・・運転者名
- ④ 誰と・・・相手方氏名、電話番号、住所、相手方の車名、会社連絡先
- ⑤ どうして・・・事故状況
- ⑥ どうした・・・現在までにとった処置、病院名
- ⑦ 届出警察・・・担当者名も必ず確認

3. 事故が発生した際は、その日の運行は中止します。運行再開にあたっては、相模原市の判断を仰ぎます。

6. 急病人発生時の 対応マニュアル

初期対応のポイント

★まず、救急車要請が必要かどうか判断します

- ①呼吸困難・意識障害 ②出血多量 ③激痛 ④広範囲のやけど
- ⑤その他、緊急な場合

※人手が多いほうが良いので、近くの人に協力を依頼してください

＜救急車要請が必要な場合＞

1. 救急車を呼んでください(119番)

焦らず、以下の事項をゆっくり伝えてください。

- ①状況 ⇒ 事故なのか急病なのか、どんな容態か（意識・呼吸は？）
- ②場所 ⇒ 相模原市緑区若葉台●丁目●番地周辺、●●（施設名）の周辺
- ③通報者の氏名

＜救急車要請が不要な場合＞

1. 安静を保ちましょう

具合の悪い人や運転手、介助員の安全確保ができる場所で安静にしましょう。

2. 対処方法を確認しましょう

具合が悪い人の名前を呼んで、答えがある場合は、症状の有無や程度、過去の同様の症状の有無・対処方法の有無等を確認してください。

報告のポイント

1. 初期対応が終わったら、現場からまず「グリスロ若葉台の会」の調整役へ状況報告をしてください。

グリスロ若葉台の会（調整役）・・・ 000-0000-0000

2. 以下について報告してください。

- ① いつ・・・発生日の年月日、時間
- ② どこで・・・発生場所
- ③ 誰が・・・運転者名
- ④ 誰と・・・急病人氏名
- ⑤ どうして・・・発生状況
- ⑥ どうした・・・現在までにとった処置、病院名

3. 基本的には、安全運転に気を付けて、再度決められたコースを回ってください。

緊急対応後は、自分で思っている以上に興奮・緊張していることがあります。添乗員と相互に確認し、少しでも不安を感じる場合は調整役に報告する際にその旨を伝え、運転を代わってもらうなど対応をお願いしてください。

7. 緊急連絡網

